

第7回自治医科大学附属病院地域医療連携研究会

ライフステージと地域医療

— 小児医療から成人医療への移行期（トランジション）医療のあり方 —

日 時 平成30年5月26日(土) 18時～
場 所 ホテル東日本宇都宮
研 究 会 第一部 講演会
第二部 情報交換会

主 催 自治医科大学附属病院
後 援 栃木県医師会 栃木県歯科医師会

【開会の辞】

自治医科大学附属病院 患者サポートセンター副センター長、消化器外科学准教授 笹沼 英紀

略歴

- 1994年3月 自治医科大学医学部 卒業
- 1994年5月 自治医科大学附属病院 初期研修
- 1996年5月 芳賀赤十字病院外科 医員
- 1998年5月 栃木県栗山村立 湯西川（ゆにしがわ）診療所 所長
- 2000年5月 自治医科大学附属病院消化器一般外科 後期研修
- 2002年5月 広域行政事務組合立 那須南病院外科 科長
- 2008年4月 自治医科大学附属病院 消化器一般外科 助教
- 2009年9月 デンマーク オーフス大学 肝胆膵外科部門 留学
- 2010年10月 小山市民病院 外科 医長
- 2015年8月 自治医科大学附属病院 消化器一般外科学 講師
- 2015年10月 地域連携・患者支援部入退院支援室長 兼任
- 2016年9月 患者サポートセンター副センター長 兼任
- 2017年8月 消化器外科学 准教授

【講演会】

座 長 自治医科大学附属病院 病院長補佐、感染制御部長・准教授、感染症科科長
患者サポートセンター長 森澤 雄司

略歴

- 1991年3月 東京大学医学部医学科卒業
- 1991年6月 東京大学医学部附属病院・第一内科（黒川清先生）・研修医
- 1992年6月 東京大学医学部附属病院分院・内科（浅野茂隆先生）・研修医
- 1993年6月 関東通信病院（現・NTT 東日本 関東病院）・呼吸器センター（石原照夫先生）・専修医
- 1995年4月 東京大学大学院・医学系研究科・免疫学講座（谷口維紹先生）・大学院生（単位取得退学）
- 1997年3月
- 1997年4月 東京大学医学部附属病院・感染症内科（木村哲先生）・医員
- 1997年7月 東京大学医学部附属病院・感染制御部（木村哲先生）・助手
- 2004年4月 自治医科大学附属病院・感染制御部長
- 2009年4月 自治医科大学附属病院・感染症科・科長（兼任）
- 2012年4月 自治医科大学附属病院・中央手術部・中央材料室・室長補佐（兼任）
- 2013年10月 自治医科大学附属病院・総合診療内科・副科長（兼任）
- 2016年4月 自治医科大学附属病院・病院長補佐、地域医療連携・患者支援部・部長（兼任）
- 2016年9月 地域医療連携・患者支援部を患者サポートセンターに改称、センター長（兼任）

講演 I

トランジション医療

— 小児から成人へ、特に医療的ケア児を中心に —

自治医科大学小児科学 教授 小坂 仁

小児の在宅人工呼吸管理が初めて行われた 1983 年当時は人工呼吸器や周辺機器の購入に関して 300 万円以上の自己負担が必要であり、在宅物品の多くも個人負担であった。在宅人工呼吸器療法は、例外的な医療であり、病院主治医はしばしば自宅訪問し、機械トラブルや患者の状態の変化は、逐一主治医に相談が寄せられた。その後、患者家族側の願いと、長期入院児の病床専有により、新規の入院に対応できない病院側の事情もあり、人工呼吸器や胃瘻等を必要とする医療的ケア児の在宅移行が強力に進められてきた。また児童福祉法も改定され、自治体も地域の医療的ケア児へ取り組んでいる。小児を卒業したのちの成人医療へのトランジション医療は、心・腎臓疾患等では進みつつあるが、神経疾患を有する医療的ケア児は、小児医療の包括性（“なんでも診る小児科医”）、急性期の“高い看護必要度”等の理由から最も困難である。在宅医や地域病院、基幹病院の連携、多職種の間わりを通じ、家族全体が無理なく機能するよう患者の生涯を支えていく、トランジション医療が求められている。

略歴

1987 年 3 月	東北大学医学部卒業 (同年 5 月)	医師国家試験合格)
1987 年 5 月	神奈川県立こども医療センター	(内科レジデント)
1989 年 4 月	横浜栄共済病院	(小児科医)
1990 年 6 月	藤沢市民病院	(小児科医)
	藤沢市民病院神経外来	
1991 年 6 月	横浜市立大学浦舟病院	(小児科医員)
1994 年 6 月	横浜市愛児センター	(小児科医・副医長)
1996 年 4 月	Univ. of California, San Diego.	
	Dept. of Pharmacology. (Postdoctoral Fellow)	
1999 年 4 月	国立精神神経センター疾病研究所第四部	(外来研究員)
2003 年 4 月	神奈川県立こども医療センター神経内科医長	
	科学技術振興事業団さきがけ 21 研究者 (情報と細胞機能)	
2010 年 4 月	神奈川県立こども医療センター神経内科部長	
2013 年 9 月	自治医科大学小児科学教授	

所属学会他

日本小児科学会、日本小児神経学会、日本てんかん学会、日本再生医療学会、日本神経学会、日本先天代謝異常学会、日本ミトコンドリア学会、日本分子生物学会、日本生化学会、小児神経学会認定医・評議員、小児神経学会専門委員会副委員長、日本てんかん学会評議員・専門医・指導医、日本ミトコンドリア学会評議員

主たる研究領域

小児神経疾患全般、特に遺伝性難病の治療研究

講演II

重症心身障害施設の現状と課題

— NICU から在宅への橋渡し機能とレスパイト機能

NHO 宇都宮病院 病院長 沼尾 利郎

重症心身障害とは「重度の肢体不自由と重度の知的障害を併せ持った状態」のことであり、医学病名というより行政用語・福祉用語である。重症児病棟は医療法に基づく「病院」であると同時に、18歳未満は児童福祉法に基づく「医療型障害児入所施設」、18歳以上では障害者総合支援法に基づく「療養介護事業所」であり、患者にとって重症児病棟とは「医療の場」であると同時に「生活の場」でもある。わが国の障害児福祉は身体障害と知的障害の障害種別からスタートしたため、2つの障害を併せ持つ重症児は「法の谷間」におかれて国の福祉が及ばなかった。

当院重症児病棟（100床）の状況は、20歳以上が81%（平均年齢36歳）で在院年数は平均23.6年、超・準超重症児者の割合は25.8%、人工呼吸器装着者11名などである（2018年4月現在）。栃木県内4ヶ所の重症児入所施設の共通課題として①極端な医師不足、②入所者の高齢化に伴う診療体制の再構築（小児科だけでは対応困難）、③制度改正に伴う事務量の増大、④家族の高齢化に伴う連絡/面会困難、⑤通園/短期入所事業の不経済性、⑥人材確保と人材育成の困難などがあるため、高次医療機関との連携体制を構築してNICUから在宅移行への中間施設として橋渡し機能やレスパイト（介護者の休養）機能などを充実させ、在宅重症児とその家族を支援したい。

略歴

1982年 獨協医科大学医学部卒業 獨協医科大学アレルギー内科（当時）入局
1990-1992年 米国クレイトン大学医学部 アレルギー疾患センター研究員
1993-1994年 大田原赤十字病院 呼吸器科部長
1994-2003年 獨協医科大学 呼吸器・アレルギー内科講師
2003-2006年 塩谷総合病院 副院長
2006年 国立病院機構宇都宮病院 副院長
2008年 国立病院機構宇都宮病院 院長

所属学会等

- ・日本呼吸器学会（専門医/指導医）
- ・日本アレルギー学会（代議員/専門医/指導医）
- ・日本内科学会（認定医/指導医）
- ・日本病院総合診療医学会認定 病院総合診療医
- ・ICD（インфекション・コントロール・ドクター）
- ・日本結核病学会 結核・抗酸菌症認定医
- ・日本体育協会（現在は日本スポーツ協会） 公認スポーツドクター
- ・日本障がい者スポーツ協会 公認障がい者スポーツ医
- ・日本医師会認定 産業医
- ・栃木県医師会勤務医部会理事
- ・栃木県病院協会常任理事
- ・栃木県内科医会副会長
- ・宇都宮内科医会副会長
- ・獨協医科大学臨床教授

報告 「附属病院の現況と地域医療連携」

自治医科大学附属病院 病院長 佐田 尚宏

略歴

1984年6月 東京大学医学部第一外科研修医
1993年8月 東京大学医学部第一外科医員
1994年1月 京大学医学部第一外科助手
1996年9月 キッコーマン総合病院外科部長
2000年4月 自治医科大学消化器・一般外科講師
2003年8月 自治医科大学消化器・一般外科助教授
2007年10月 自治医科大学鏡視下手術部、消化器・一般外科教授
2015年1月 自治医科大学消化器・一般外科主任教授
2015年4月 自治医科大学附属病院病院長